

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ (C) (2単位)	3. 科目番号	SCMP3185
2. 授業担当教員	森田 和美		
4. 授業形態	講義、演習、討論	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅲは、精神保健福祉援助実習第一段階の帰校指導の役割りも兼ね、実習の振り返りを行い、実習における学びを深める。また、精神保健福祉援助実習指導Ⅱに向けての準備、事後学習も行い、終了した時点で次のことを達成していることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 2) 事前訪問を実施し、実習生、授業担当教員、実習指導者（スーパーバイザー）との協議を踏まえた実習計画を完成させる。 3) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 4) 記録の意義について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 5) 実習中に行う事例について検討し、支援計画の立案を実践的に理解する 6) 実習中の利用者との関わりを振り返り、自己覚知を深める 7) 実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 8) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第1回目に、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習体験における事例 2. 第一段階実習の進捗状況 (帰校指導報告書の作成2回) 3. 第一段階実習の総括レポート (実習報告書) 4. 第二段階実習の総括レポート (実習報告書) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『新版精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版、2017。 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著『事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド』日総研出版、2006。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2種の実習の振り返りから学びと課題を整理、言語化できる。 2. 実習に際して必要な提出物 (帰校指導記録その他) を期限を守り提出できる。 3. 実習に向けての準備を行える。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業時の提出物 20% 2. レポート (実習総括レポート) 50% 3. 授業への積極的参加態度 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	この授業では、実習と連動して精神保健福祉士としての実践力の向上に焦点を置いて授業を進める。学生の積極的な授業参加を期待する。		
13. オフィスアワー	別途、連絡する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱの振り返りと確認 ・本講義内容、進め方の説明 ・援助実習開始に向けて ：援助実習の目的、課題を再度確認する ：実習プログラムの確認 	事前学習	精神保健福祉援助実習第一段階に必要な事柄を整える
		事後学習	実習の手引き「精神保健福祉援助実習第一段階」の項目を熟読し、理解を深める
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ：実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の理解 ：ケース記録の意義を理解する ：ケース記録の全体を把握する 	事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす
		事後学習	『学習の手引き』にあるソーシャルワークケース記録に目を通す

第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ・実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の理解 ・アセスメントについて ・ジェノグラムとエコマップについて 	事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす
		事後学習	実習で担当しているケースについて収集した情報をケースワークシートに記入する
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ・実習実施上の問題点等について検討 ・帰校指導記録の作成 ・ソーシャルワークケース記録の理解 ・プランニング・インターベンションと評価について 	事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす 帰校指導記録用紙に実習の進捗状況を記入する
		事後学習	実習で担当しているケースについて収集した情報をケースワークシートに記入し、アセスメントのうえ、支援計画について考える 帰校指導記録用紙のまとめを記入する
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ・実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の理解 ・インターベンションと評価について ・社会福祉専門職についての理解 ・実習施設・機関で行われる各種手続きについてまとめる ・実習施設・機関で行われる相談援助業務についてまとめる 	事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす 実習中必要となった制度や相談援助業務についてまとめる
		事後学習	実習で担当しているケースについて収集した情報をケースワークシートに記入し、アセスメントのうえ、支援計画について考える 授業を通して、制度や相談援助業務について確認した事項を追記する
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ・実習実施上の問題点等について検討 ・帰校指導記録の作成 ・連携についての理解 実習施設・機関と社会資源、関係機関との連携についてまとめる	事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす 実習中連携をした機関やそれぞれの役割について気づいた点を書きだす 帰校指導記録用紙に実習の進捗状況を記入する
		事後学習	授業を通して学んだ点をまとめる 帰校指導記録用紙のまとめを記入する
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討について ・事例検討の意義と方法を理解する ・実践事例の報告と検討 ・担当している事例についての報告と意見交換 	事前学習	体験している事例について報告の準備をする
		事後学習	報告された事例について学びとなった点をまとめる
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例の報告と検討 ・担当している事例についての報告と意見交換 ・実習の振り返り ・実習総括レポート(実習報告書)の作成について説明 ・実習のまとめに向けて ・基礎実習から援助実習を通して、学んだことと課題を振り返る ・実習終了に向けて必要事項の確認(記録の提出等) 	事前学習	体験している事例について報告の準備をする。 テキスト第6章Ⅲ「課題の整理と総括レポート」Ⅳ「実習報告会および実習報告集」を熟読する
		事後学習	実習終了に向けて必要なことを確認する 実習総括レポートの準備をする
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ・実習評価の意義について理解を深め、自己評価を行う ・ソーシャルワーカーとしての自分について理解を深める(自己の価値観が実習中利用者とのかかわりにおいてどのように反映したか考えをまとめる) ・第二段階実習に向けての準備 ・個人調書の準備 ・配属先に関する情報収集 	事前学習	実習テキスト該当項目を熟読する
		事後学習	実習総括レポートを作成する 第二段階実習先に提出する個人調書を作成する
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・第二段階実習に向けての準備 ・第二段階実習における実習課題の説明 ・実習施設概要の作成 ・実習プログラム(案)の作成 	事前学習	実習の手引き「第二段階実習」について目を通す 第一段階実習を振り返り、第二段階実習に向けての自己の課題を明確にする
		事後学習	実習施設概要、実習プログラム(案)の作成
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・第二段階実習に向けての準備 ・実習施設概要、実習プログラム(案)完成 ・事前訪問に向けた準備 ・事前訪問の目的と意義の再確認 ・基本的態度と訪問時の注意事項の再確認 ・スーパーバイザーと協議したい事柄を明確にする 	事前学習	実習施設概要、実習プログラム(案)の手直し
		事後学習	実習施設の概要の完成 事前訪問時にスーパーバイザーと協議したい事柄をまとめる

第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問の総括 ：実習計画に関するスーパーバイザーとの協議事項の確認とそれを踏まえての計画書の完成 ・第二段階実習における最終確認 ：学習のまとめと、第二段階実習に向けての課題整理 ・第二段階に向けた事前学習まとめ ：精神科医療機関における制度（入院制度、保険制度等）及びワーカーの役割を確認する ：社会復帰施設や就労支援に関する制度（障害者総合支援法、障害者雇用促進法等）、ワーカーの役割を確認する 	事前学習	事前訪問報告書を作成する 精神保健福祉法、障害者総合支援法等必要な事柄を箇条書きにする
		事後学習	実習プログラム（案）を完成させる 実習施設概要、実習プログラム（案）を実習施設に持参し、指導者と協議する。 配属先に即した実習中必要となる制度についてまとめ、実習に備える
第13～15回	<ul style="list-style-type: none"> ※ 第二段階実習の事後学習として、実習終了後実施します。日程については後日通知します。 第二段階実習事後学習 ：実習の振り返り ：実習総括レポート（実習報告書）の作成 ：実習報告 	事前学習	第二段階実習で学んだことを振り返る 実習総括レポート及び発表の準備をする
		事後学習	実習報告を通して、再度自己の実習での学びを振り返りまとめる

備考：実習に関する主な事項と授業回数との関連

実習/実習コンピテンス関連事項	時期	授業回数との関連 *おおよその目安、変動あり
第一段階実習開始	10月第1週より	第1回の週に開始
帰校日指導	10月～12月に 2回実施	第4回、第6回あたりに実施
第一段階実習終了	12月中旬	第8回～第9回あたりで終了
セルフアセスメントの実施④	第一段階実習終了後	実習終了後各自実施し、実習記録に閉じて提出する
第二段階実習先決定・発表	12月初旬	第6回～第8回あたりで発表
★実習先「施設概要」下書き提出	1月初め	第10～第12回あたり、1月最初の授業で持参する
セルフアセスメントの実地⑤	1月後半	第二段階実習前に実施
第二段階実習先事前訪問	2月初め	2月初めの授業補講期間等を利用して学生個別に実施
セルフアセスメントの実地⑥	第二段階実習終了後	実習終了後各自実施し、実習記録に閉じて提出する
第二段階実習事後指導	3月下旬	第13回～第15回